

**製品名: IKBKE マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80623**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	/

**抗原情報**

遺伝子名	IKBKE
別名	IKBKE
遺伝子 ID	9641.0
SwissProt ID	Q14164
免疫原	大腸菌で発現した IKBKE (aa1-257) の精製された組み換え断片。

**背景**

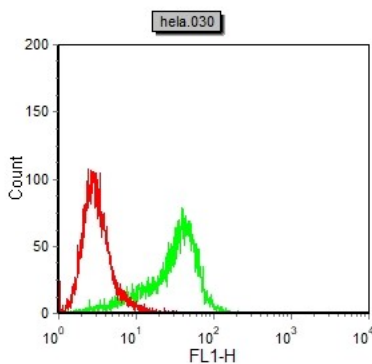
セリン/スレオニンキナーゼは、I型インターフェロン（IFN）、NF-κB、STATシグナル伝達の活性化を介して、ウイルス感染に対する炎症反応の制御に重要な役割を果たします。また、TNFAやインターロイキン-1などの炎症性サイトカインのシグナル伝達にも関

与しています。RIG-I 様受容体などのウイルス RNA センサーが活性化されると、DDX3X と会合し、インターフェロン調節因子 (IRF) である IRF3 と IRF7、および DDX3X をリン酸化します。この活性により、IRF3 のホモ二量体形成と核への移行が可能になり、IFNB などの炎症誘発性遺伝子と抗ウイルス遺伝子の転写が活性化されます。このような抗ウイルス状態を確立するために、IKBKE は細胞の種類と細胞刺激に応じて構成が異なる複数の複合体を形成します。このように、IPS1/MAVS、TANK、AZI2/NAP1、TBKBP1/SINTBAD などのいくつかの足場分子が IKBKE 含有複合体にリクルートされる。TNFA およびインターロイキン-1 に応答してポリユビキチン化によって活性化され、NF- $\kappa$ B を調節する。

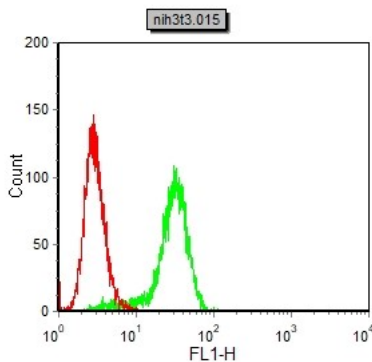
## 研究分野

Jak-STAT シグナル伝達経路

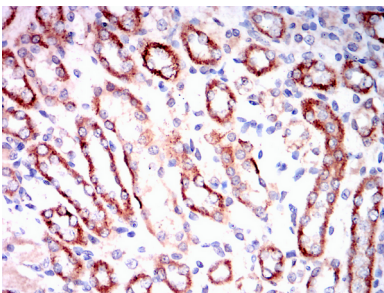
## 画像データ



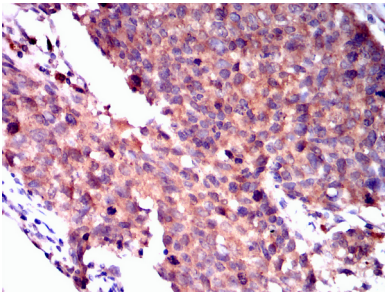
IKBKE マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。



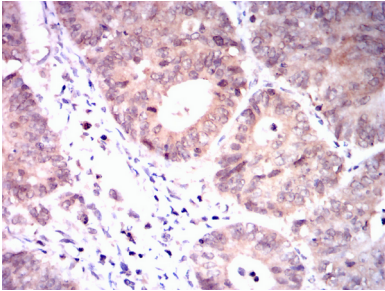
IKBKE マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した NH3T3 細胞のフローサイトメトリー分析。



IKBKE マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学分析。



IKBKE マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学分析。



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析